

地区広報

かいぞう



▲大正末期海蔵小学校風景(100周年記念誌より)



▲万古焼 昭和30年代はじめ(四日市市史より)



▲桜 昭和28年海蔵川改修による(地区広報かいぞうより)

去り行く世紀の軌跡をみつめ

捨てるもの拾い上げるもの

その選択がたいせつ

ほのかに漂う美風

人間味豊かな伝統

それらの復活をめざし

自然を愛し 人のつながりを深め

心の世紀をめざし

苦勞をともに越えられる

豊かな住みよい

ふるさとづくりを



▲しらすぎ橋開通(平成7年)



▲園児とお年寄りのつどい(毎年実施)

海蔵地区の人口 総数 11,422 男 5,742 女 5,680 世帯数 4,120 (3月1日現在)

編集・発行 海蔵地区社会福祉協議会・海蔵地区市民センター 印刷/水九印刷(株)

21世紀へ夢つなぐ

今、私たちは西暦二千年という節目に立っています。激動の二十世紀を終えるにあたって、思いも一入ひとしほです。文明や科学の発達と経済構造の変化は多くの副産物を残しました。特に終盤は、物にあふれ利便性のみを追求しました。そして、やっと心の豊かさの大切さに気づきはじめました。

「人間の幸せとは何だろう」モラルの再構築を基盤とし、一人ひとりがそろそろ真剣に考える時です。心の時代の到来はその核を「家族」へと示唆しています。家族の絆を基に地域社会に貢献することの大切さをわかり合い、いたわり合いの心で、新しい街をめざしましょう。

この転換期に、地区広報部では「私たちが21世紀へ残したいこと、伝えたいこと」を地域の方からの投稿により特集しました。
(掲載はあいうえお順)

21世紀へ向けて

私の夢と願い



阿倉川町 伊藤 節子



ことが夢です。そこでは子どもと高齢者の方の触れ合いも生まれるでしょう。おじいさん、おばあさんと一緒に住んでいない子は、交流する場が与えられ、昔の知恵・遊びが伝承されることにもつながると思います。

私は、海蔵地区にずっと住みたいと思っている一人です。高齢化が進んでいる今日、一人暮らしの人も多くなっています。子どもから高齢者、障害を持っている人が集まることの出来る集会所がたくさんあったらいいなというのが私の願いです。

現在、子供会なども利用できますが、海蔵地区全町にできる

もう一つの夢は、その集会所に喫茶コーナーや趣味のできるコーナーをつくることです。たくさんの人と知り合いになれたら、とても心楽しいと思います。私は、夢に向かって一歩一歩進んで行きたいと考えています。もっと住みよい海蔵地区を目指して！

～伝えていきたい～ 私の思い出

本郷町 今村 渉



1、末永の水

昔の末永には海蔵川から水が各戸に流れ、これを大切な生活用水として、飲料水や風呂または洗濯に使用し、また、これらの排水は、川を汚さないように畑にまいたりみんなが気をつけていました。

2、蛍の乱舞

6月頃になるとあちこちで蛍の乱舞で、特に海蔵川の堤防は付近が明るくなるくらいで、菜種がらを振り回しては蛍をとり、家では蚊帳の中に放して遊んだものです。

3、昔の遊び

12月のはじめ頃収穫した稲の籾もみすりが終わる頃ころは寒く、子供達

は「いのこ」を作り、夕方になると集まって一軒一軒玄関前で声を揃えて、「いのこの晩に重箱ひろてあけてみたらじゅべさんのきんだま」と歌いながら、いのこ

昔はよく雪が降り、学校では壮絶な雪合戦をやり、また垂坂山の麓一帯で兎狩りを青年団と一緒にし、狐もとれました。

5、海蔵川

川では、ふな、鯉、鮎、鰻、鯰、えび、はぜなど多くの魚がいて、子供たちは時々釣ったりしましたが、やたらと取ることはなかったです。戦後この状況はなくなり残念です。以上、私の子供の頃の思い出です。



2000年の伝言板

地区文化祭でのメッセージから~
11.10/31~31

新しゆの虫をみつけたいなー

地域との関わりが希薄になっているので地区の行事を老若男女が自然に交流できるようずっと続けてください。美しい自然、子供たちが夢を持って生きられる社会、平和を愛する心。

海蔵地区の住民、65歳以上の年代のものも心配なく安心して生活できる地域をつくること。
青少年が自分の目標をたて、それを実行できる考え方をつくれる教育環境をみんなでつくること。

2000年もこのようなすばらしい文化祭を続けて欲しいです。

みんなが「笑顔であいさつ」し合う明るい地域になったらいいなと思います。
せっかく実施された「あいさつ運動」を無駄にしないように地域のみなさん頑張りましょう！

世の中平和でいてねー。
たからもの ハムスター

2000年になっても明るく楽しい暮らし、バリバリいきたい。ピース。

2000年に迎って産声を上げたわが孫へ“平凡で良い、健康で平和を愛する心を持って！”と、エールを送る。

いじめなくせつちゅーの！マジで。子どものままがいいー。

豊かな海蔵川と田園風景。
三世代交流のある家族。

地域の子供から老人まで、コミュニケーションのもてる元気のいい海蔵地区になってほしい。

2000年になったらもっとも習字とピアノが上手になりたいです。
2000年の私へ ぜったいもっとうまくなってよなー！

いいわが、いいぞー！

わたがしの雲でひるねがしたい。そらをとびたーい。
お金の海でおぼれたーい。



日本は、驚くスピードで経済力をつけ成長しました。しかし、高齢化問題などがかかえ、スランプに陥っているように思います。厚生省は、この重大性に気づき、介護保険をスタートさせます。これは、大問題に積極的に取り組もうと言う点で評価ができます。しかし日本人は医療と福祉は同じと考えてきたので介護保険になじみがなく、色々な問題が生じています。人の病状をコンピューターで点数評価することに納得できる人はいないのでしょか。老化は老人

輝く21世紀のために

西阿倉川
古田義博

近所のご老人が「夏休みに孫が遊びに来てね。一週間もいたから疲れちゃって」と疲れた顔もせず話されているのを見ます。孫との新しい生活を積極的に楽しんでいきます。スランプから脱出しようとしたのです。
私たちは、この考え方を21世紀に受け継いでいきたいものです。
孫との接触を避け、休養しようと考えるのが医療であり、孫と接触して新しい展開を期待するのが福祉、介護なのです。



とその回りの人だけの問題だけではありません。それを点数で定めれば、その点数を上回る悲劇的な人が登場し、そこには悲しみも憐れみもなくなってしまう。私たちは、介護保険が偏差値教育の老人版にならないために福祉の意味を正しく理解し、老化現象を

考えてみなければなりません。

21世紀へ伝えるべきこと

山手中 二年 山中歩美

「21世紀へ伝えるべきこと」、それはやはり戦争だろう。あの過ちは二度とおこしてはならない。かといって、私は戦争の何が分かっているというのだろうか。実際に体験しないと絶対に分からない恐怖なのだろう。だからこそ、実際に「戦争」というものを体験したお年寄りの方々から子供の私達に伝えていってほしい。「戦争は人間の手で人間をくるめている、恥じるべき行いだ」ということを。

これから時がたつにつれて、戦争を体験した方々はどんどん亡くなっていて、いつかは、生きているすべての人が戦争を知らぬ世界になってしまう。そんな時にまたあの悲劇が起こらないように、「今」、私達に伝えてほしい。私達はそれを後の21世紀、22世紀を生きる子供達に伝えるのが役目だと思う。

起こってからではおそいから。



家族の再構築

① 青少年問題 ② 老人問題 ③ 環境問題

大きな夢・希望・願いは歴史に名を残したり、社会を飛躍的に高めるためには大切です。しかし、現在の社会状況を観ると深刻な問題に直面しています。それは、

① 青少年問題 ② 老人問題 ③ 環境問題

環境問題を除けば青少年・老人問題も核家族化に伴う家庭崩壊が大きな要因です。単身赴任、過労死、少子化、カギっ子、介護放棄、施設入所などにみられます。

家族揃ってのどんらんの食事などコミュニケーションは少なく、一般的に親子関係も希薄となり、本来、親の責任である子供に対する善悪のけじめ・躾も不十分となつていきます。

結果的に弱い立場の子供や老人にツケがまわり、被害者にもなり加害者にもなつて様々な問題を引き起こしたと思います。

これらは、より物質的に豊かで便利な社会をめざした、高度経済

成長の流れの中で起きた必然的な現象で精神的にはマイナス・退化した現象であると思います。

私たちは歴史から学ぶことが沢山あります。温故知新の言葉とおあり、昔の家族制度のよさを見直し、21世紀には人間社会の基礎となる「家族の再構築」を。

— 匿名 —



わたしたちが21世紀へ残したいこと、伝えたいこと
萬古焼の先達たちが遺したもの

東阿倉川 松本賢一

萬古焼は全国で五本の指に数えられる産地として、地域の経済に貢献し、総生産に占める輸出の割合は首位の座を保ち外貨の獲得にも大きく寄与してきました。それだけに先達たちが遺したのも大きく、その技術や技法は勿論のこと、その心根は未だに脈々と息づいているものがあります。

その人々に共通して言えることは私利を願わず、富国の心を養ったことでもあります。

未来永劫に続くであろうことを願って沼波弄山が「萬古不易」又は「萬古」の印を作品に押し出したことに始まった萬古焼二六〇年の来し方には、その節目節目に黄金の釘を打ち込んでくれた数多くの忘れ得ぬ先達たちがあります。即ち木型成型や粉彩盛り絵をはじめ多くの新しい技術技法を編み出した森 有節、「海蔵庵」と称する工房を設けて四日市萬古焼の先駆けとして地域社会に貢献した田端教正、そ

して農民の貧困を救済せんがため幾多の苦勞を重ねて産地化への基礎づくりをした山中忠左衛門、また多くの後継者を育成した堀 友直、更には輸出の足がかりをつくつた川村又助や「大正焼」を誕生させることにより産業革命を起こした水谷寅次郎を忘れることは出来ない。寅次郎が筆舌に尽くしがたい苦難の末「大正焼」が生まれ出たとき、「独占事業として会社組織にする企画」の話があつた寅次郎は「私は萬古焼の将来を深く考慮して身分不相応な夢を追つたのであつて、私欲から出発したものではありませんから」と、この厚意的な申し出を即座に断つたものであります。

最後に感恩、報恩の心をもって、来るべき21世紀を担つて立つ人々の無限の向上を祈りたい。

「劫初より、つくりいとなむ殿堂に
 われも黄金の釘一つ打つ」

与謝野晶子

大規模災害にたいし、今や「自分たちの町は自分たちで守る」が通例となっています。阪神淡路大震災以来、防災意識は高まりましたが、家庭・地域の災害に備える体制はだいじょうぶでしょうか。

市の消防は、早くから地域の自主防災組織を提唱し、海蔵地区の大部分の町には「自主防災隊」がつくられている。また拠点として海蔵神社内に、耐震性の百トン水槽と、小型動力ポンプを備える市民防災隊が結成されている。

そして、海蔵地区の火災等には常時出動いただく消防分団とともに、毎年の消防出初式に参加していただくほか、ポンプ車の定期点検の世話になるなど、地域の防災拠点として活動されている。

各町自治会に設置を進めている「自主防災隊」は隊長が自治会長さんで隊員は組長さんがな

〈わが町の防災隊〉

ポンプ車は、小型であるが馬力は強く、ホースの総延長は三百米にも耐え、街角の消火栓から導水し、威力を発揮するといわれている。隊員のみなさん、ほんとうにご苦労様です。

わが町の防災機能を高めよう

大規模な災害はともかく近隣の火災等出動いただく体制をよ

ろしくお願いいたします。〈近隣で守り合う構えを〉

あの一人大らしの方はあの部屋だなど
生活実態を知り合う
日頃からのふれあいが大切
初期消火ができる
パケツリレーなど消火用具の確保

〈各町の自主防災隊をよろしく〉

町内できり
町内での役割分担をはっきりしておく
情報伝達・避難誘導・救助
簡易防災用具の置場づくり



市民防災隊の放水

わが家の備えも

日頃から!

9/1 防災訓練では

これまで、海蔵地区は独自で防災訓練を実施しておりましたが、本年度は四日市市が主催する『市民総ぐるみ総合防災訓練会場』として海蔵川河川敷が本会場に選ばれました。

この訓練は東海大地震等を想定して、国・県・市・防災関連事業所と自治会・消防団・自主防災隊・婦人会等地域組織が協力して実施されました。

訓練内容は①避難、②応急救護、③消火、④水防、⑤放水、⑥炊き出し等が行われました。

また、ヘリコプターによる消火・救助。自衛隊による水防活動、倒壊家



屋からの救出救助、火災の類焼延焼防止。ゴムボートを使った渡河等、地区訓練では出来ない大規模訓練を見学・体験することが出来ました。

訓練参加規模	
●機関、団体	32
●車両	93
●ヘリコプター	1
●ゴムボート	1
●参加人員	約1,200名

○台風等風水害のときの避難所
●地震のときの避難所、避難地

○	四日市朝鮮小中級学校
○	三ツ谷公会所
○	海蔵南公会所
●○	山手中学校
●○	海蔵小学校
●○	海蔵地区市民センター
○	農協海蔵支所
○	野田町公会所
●○	四日市商業高校
●○	大谷台小学校
●	海蔵川緑地

撮った！ 写った！！ 地域の行事・この一年

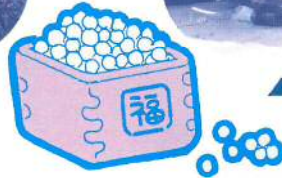
行事はまだたくさんありますが
その一部を紹介します。



▲菖蒲園へさつきを
植えました



▲節分に豆まき
鬼といっしょにハイポーズ



▲海蔵川の救命ブイ点検
水難事故防止、役立つように



▲市民センター横に花壇作り
きれいに花が咲きました



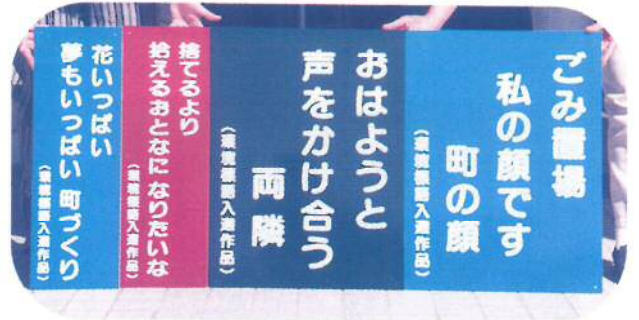
▲親子料理教室
楽しく美味しい料理作り



▲七夕に海蔵保育園児と
お年寄りのつどい



▼きらら号で星空の観察



▲地区のあちらこちらに 標識を取り付けました

▶人権を考える集い
▼楽しく笑って人権高座



▼ペッタンコ、ペッタンコ 文化祭で恒例の餅つき



▼エコクラブ自然観察ラリー 垂坂公園羽津山緑地で



▲栗も拾ったよ



◀クイズに挑戦



自分で創る、第二の人生を、自分でGET



新聞を二回読んでもまだ十時

定年退職された方の川柳です

「ほおー洗濯機は逆にも回るのか？」私の洗濯をみていて、主人が発した一言でした。

これをきっかけに、主人は『洗濯』に目覚め、家の洗濯は私の仕事でなくなりまして。

初めはトラブル続きでしたが、今ではプロ。

主人六十二歳、退職して二年目。仕事一筋四十年間、私たちが家族のために、懸命に働いてくれました。仕事が一筋の人にこれといった趣味はありません。

退職後にできた沢山の時間をどうやって使っているのか分らないのです。新聞をすみずみまで読むのは以前からですが、現在は、挟み込まれている「広告」がお客様。少しでも安い品物があれば、買い出しに出動。おかげで我が家はトイレットペーパーなどの山。いつも一緒にいられるのはいいのですが……………。

これは、地区内の主婦の方のお話です。このような方々がたくさん海蔵地区におみえになるのではないのでしょうか。

地区市民センターには、現在三十余りのサークルがあり、写真は今回、練習会場を訪問させていただいたコーラスサークル「すずらん会」です。現在十九名の会員で、女性（四十〜七十代）男性（五十〜六十代）の若々しい歌声はとてもさわやかで、また障害をもたれた方々も積極的に参加されている姿勢と笑顔はとてすてきでした。

現在あるサークルもいいですが、第二の人生を過ごしている方の中には、多くの専門技術を持った方々が、おみえになるのではないのでしょうか。

そのような人々を講師にした海蔵地区市民大学のようなものが、できたらいいですね、自分の時間と趣味、特技を活かして。

そのような人々を講師にした海蔵地区市民大学のようなものが、できたらいいですね、自分の時間と趣味、特技を活かして。

存

び

です

か

ご

若さはいへんすばらしい大きなエネルギーを持ちます。一方、未熟な手で自らを操縦しなければならぬ大変な時期でもあります。膨大な情報や物質の刺激や誘惑の集中砲火を、毎日満身に受けながら、それをあたりまえのこととして、自分一人で自らをコントロールしていかなければならないのが子供たちではないのでしょうか。

子供たちの考え方が分からない・行動の動機がわからない・話を通じない・ましてや親や教師の言うことはなかなか聞かない。そんな毎日ともいえますが、今の世の中で、子供たちが自らの未熟なハンドルさばきで必死に自分を運転している様が大人から見るとそんな風に映るのかもしれない。親として子供にはこんなことを言いたい、こうすればよくなるだろう、こうすれば助けてやれると感じ、やってみても思うような結果が出ない。だから、確信が持てなかつたり、分かっているもやろうとしなかつたり、はたまた考えようとしなくなっているのが今の実情ではないのでしょうか。

「青少年健全育成ネットワーク会議」は青少年協の主な活動の一つですが、子供を持つ親達、小中学校の先生方、警察官などが集まり、地域の子供達のかかえる問題を自分たちの問題としてそれぞれの立場で、何を考えるかを考え行動していく

海蔵地区青少年育成協議会の活動

ための集まりです。また、学校が休みになる時期、夜の九時から海蔵、大谷台校区で行う巡回補導ではメンバー三人づつがグループを組んで親の目の届かないところでの親代わりを果たしています。

総勢三十三名が、さらに保幼小中PTA、育成会、役員の方のご協力を得て、自分達の子供の問題を考えたり、ほかの子供達の様子を見聞きしながら、彼らがその若さの真っ只中で、彼らのエネルギーを十分有意義に生かしていくことを願って活動を続けています。

青少年協にこんなことを相談してみたい、聞いてみたいということがあれば、お気軽に、海蔵地区市民センターを通じてご相談ください。

編集後記

20世紀においていきたいもの、21世紀にもっていききたいもの、人それぞれに違うでしょうが、何世紀になっても「人類愛」「いたわる心」は伝えていってほしいものです。

ともすれば、人間社会という共同体のルールを忘れてしまい、大小の「いさかい」が生じてしまいます。次代を担う子供達にルールを教えるいくのは、家庭での「しつけ」からではないのでしょうか。

